

児童養護施設 大村子供の家



第十号創刊を記念して

副施設長 松本 幸治

四半期毎に「きっずうえいぶ」を発行し、今回で、めでたく十号目を迎えました。日頃からお世話になっている方々への感謝の意と、子ども達の日頃の生活を定期的にお伝えできればと、2年半前から広報委員会のメンバーを中心に作成し始めましたが、いつしか、子供の家の子どもたちが「きっずうえいぶ」を読み、記事を投稿してくれるようになりました。中には大人顔負けの立派な文章を書いたり、上手な絵を書いてくれる子どももいて、予期せぬ子どもたちからの協力で、驚きとうれしさを感じております。

コラムの中で、お世話になっている他業種の方や知人の外国人からの投稿記事を載せています。児童養護と直接的には関係ないかもしれませんが、「施設や国境を越えた人と繋がり」があり、我々の生活があるということをお伝えしたく、外部の方々へ執筆協力を依頼し、いつもご快諾をいただいております。また、閉鎖的になりがちな施設の中で、他の分野・世界にも興味関心を持ち続けたいという思いもあります。

今後とも、参加型の機関誌にしていきたいと考えております。お忙しいかとは思いますが、お時間のあられる時に読んでいただけると幸いです。

皆様からの投稿も大歓迎ですので、引き続きご協力よろしくお願い致します。

うちの「ごはん」(桜ホーム)

「ただいま。今日のごはん何？」が、帰宅の第一声。つまみ食いができるものがあれば、調理の小川先生が秘密で口に入れてくれる。そんなキッチンには、子どもたちにとって心躍る憩いの場所です。今日はこの桜ホームの食についてお話しします。

桜ホームは男子6人が生活していて、みんなの好きなメニュー第一位は、生姜とニンニクがしっかりと利いた醤油ベースの「小川先生のから揚げ」です。揚げたてを口に入れると、ジューシーな肉汁が溢れ出て、心が幸せな気持ちでいっぱい。もう一口と、どんどんお皿から消えていき、「おいしい！野菜も食べて」との調子です。



桜ホームでは、季節の行事や誕生日などのお祝い事を、食事を通じて楽しめるように、と気持ちを込めています。節分の日には、恵方巻を何本も巻いて準備。食べる時は、丸々一本を手に取り、指定の方角を向いて、まず大笑い。そして、一本を食べ終わるまで無言を貫くという儀式をします。子ども「これ何の意味あると？」大人「一年の無病息災を祈る意味かな」子ども「無病息災って何？」このように会話は広がって、季節の行事について物知りになれます。誕生日の子がいれば、その晩はご馳走です。普段は好みものものばかりにならないよう、バランスを考えたメニューですが、この日ばかりは好きなものを。みんなで食事をして、みんなで「おめでとう」「ありがとう」と、伝え合います。

食卓を共に囲むことで、たくさんの方との会話が飛び交い、心の交流ができる。食べることは楽しいこと。食べることは生きること。子どもたちの胃袋をギュッと掴んで、強く生きていく力を伝えていきたい。これが私たちが桜ホームの食のあり方です。

新一年生入学おめでとう☆

今年の春から小学1年生になる、Rちゃんに今の気持ちを聞いてみました。

楽しみなことはなに？

「おともだちとかとあそべること」

・・・楽しみだね！

がんばりたいことはなにかあるかな？

「しゅくだいとかんじ」

・・・すごいな～！

やってみたいことは？

「おべんきょうとかんじ。あと、おとうばんになって配ぜんしたい」

・・・Rちゃん えらいねえ！

大きくなったら何になりたい？

「白バイたいいんになりたい」

・・・白バイ隊員！？かっこいいね！



☆世界の国からこんにちは☆



Vincent A Palma from Sweden



Hej! ビンセントです。僕はスウェーデンの首都、ストックホルムに住んでいます。僕の両親はスペインの出身ですが、スウェーデンはたくさんの移民がいる多民族国家です。よくスイスと間違われますが、スウェーデンは IKEA (家具), H&M (洋服) のお店や、ノーベル賞や福祉国家として日本でも知られています。また、スウェーデンにはFIKA(フィーカ)というコーヒーブレイクがあり、友人や家族、同僚とコーヒー、お菓子を食べながらおしゃべりをよくします。スウェーデンは遠いですがとても綺麗なところなので、みなさん、ぜひ遊びに来てくださいね! Välkomna!



ご寄付・ボランティア御礼

日頃より、子供の家の事業に対する多大なご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

女性向けフィットネスクラブのカーブス会員の皆様方から、「カーブスフードドライブ事業」の一環で、子どもたちにたくさんの食べ物と調味料をいただきました。協力者お一人お一人の「やさしさ」が詰まったプレゼントを今回も大切にに使わせていただきます。



卒園生を代表して（K君のメッセージ）

僕は大村子供の家で16年間生活してきました。この施設では、辛かったことや楽しかったこと、色々な経験やたくさんさんの思い出があります。迷惑をかけた中学生時代。すぐ先生に反抗する時期があり、言うことも聞かずたくさん悪いことをしました。それでも、自分の子でもないので見捨てず成長を見守ってくれたことに感謝しています。

この施設での思い出は野球です。野球というスポーツをこの施設で経験することができたのは僕の人生においてすごく大きなことでした。暑い夏、九州大会出場を目標に向けてみんなで頑張った練習やチームワークの大切さ、礼儀など多くのことを学ぶことが出来たスポーツでした。野球をしている時は、親と生活できない辛さや日常生活での嫌なことを忘れさせてくれるスポーツでもありました。この施設で野球に出会えて良かったなと思います。

僕は、4月から県内の大学に進学します。この大学進学は施設の先生方のおかげで叶った進路です。奨学金の応募や大学書類の記入の仕方や手続きなど色々なサポートをいただき、進学することができました。大学生活では、施設を出て、一人暮らし、アルバイトを始めます。生活と勉強の両立をし、大学卒業を目指し頑張りたいと思います。大村子供の家の生活は辛かったこと、苦しかったこともあったけど、ここでの生活は掛け替えのないものです。いつか、この施設に帰って来たときはもっと成長し、ビックになって胸を張れるように、これからの人生を頑張りたいと思います。



施設対抗球技大会にて（前列）

幼い頃のK君



子供の家隣接地 工事スタート

2018年2月より、子供の家隣接地の本格整地作業が始まりました。新たな児童福祉事業の準備のため、工事関係者の出入りが多くなります。子供の家駐車場の一部に建設現場仮事務所が既に設置され、トラック等が正門より出入りしていますので、お越しの際は十分ご注意ください。

また、4月中旬から、下水管工事のため、正門に向かう桜道が1週間ほど通行できなくなります。その期間は近くに設置予定の代理通路をご利用いただくか、子供の家グラウンドにまわっていただく、グラウンドに車を駐車いただきますようよろしくお願いいたします。

全ての工事が完了するまで、1年ほどお時間をいただくことになり、ご迷惑をおかけしますがどうぞよろしくお願い申し上げます。



工事中



ヒューマンストーリー

黒木の山から子どもたちを支援

—開田 熊男、テル子ご夫妻—

父も祖父も、曾祖父の代も、黒木の山で先祖代々林業に携わってきた。特にこの周辺で作られる炭は、萱瀬木炭と呼ばれ、その上質な炭は東京などにも出荷されていた。炭焼の技術は300年ほど前に四国からここ黒木に伝えられ、一時期は炭焼が山の至るところでなされていたが、現在では、炭焼の技能を有するものも、近所で数軒と減ってきている。

小さい頃から、山の豊かな環境で育った。大人しく真面目な性格で、小学生の頃から林業を行う父の手伝いばかりをし、夏休みも作業で忙しかった。父の影響もあってか9年間、木材の仕事に携わり、その後20年ほど大村市内の鉄工所に勤めた。40歳半ばに鉄工所を辞め、また林業・農業に携わるようになった。今でも畑をしているが、最近は野生動物に農作物を食べられて、頭を抱えている。昔はイノシシやアライグマ、アナグマなどの野生動物が田畑を荒らすこともあまりなかったが、人が杉などの木材用樹木を山にどんどん植林し、自然のかしの木やしいの木がなくなってしまい、その実を食べて生活していた動物たちが、食べ物を求めに降りてきているようだ。

35年ほど前、近所の藁ぶき屋根の家と周辺の土地を、子供の家が購入された。それ以降、夏のキャンプや畑作業で子どもたちと先生達が黒木を訪れるようになった。当初は空き家の藁ぶき古民家を、キャンプできるようにリフォームして使う予定だったそうだが、子どもたちが古民家を怖がり、新しくキャンプ小屋が建てられたと聞いている。最初の頃はさつまいもや野菜を作り、先生方がよく山に上がってこられていたが、行き来が大変という理由もあったのか、なかなか来れなくなり、代わりに我々が田畑のお世話をしたこともあった。

子供の家の子どもたちが黒木に来るようになってから、35年ほどずっと関わりがあり、私の娘と子供の子が卒園後も仲良くしていた。田んぼで収穫したもち米を毎年、年末に子供の子の子どもたちに寄贈しているが、そのもち米を使って、毎年園内で恒例の餅つきが行われ、鏡餅やお雑煮に使われていると聞いている。

2年前に、子供の子の子どもたちに椎茸作りを教えて、去年秋から椎茸がたくさんとれはじめた。子どもたちもキノコ狩りや椎茸料理を楽しんでくれているようだ。あと2年は原木しいたけがなり続けるだろうし、また菌打ちをしたければ、お手伝いしたい。その他、炭焼や稲刈り体験など、子どもたちがもし興味があれば、また、遊びに来てほしい。



行事予定

4月・・・お花見（上旬）、小学校・中学校・高校始業式・入学式（上旬）、市長訪問

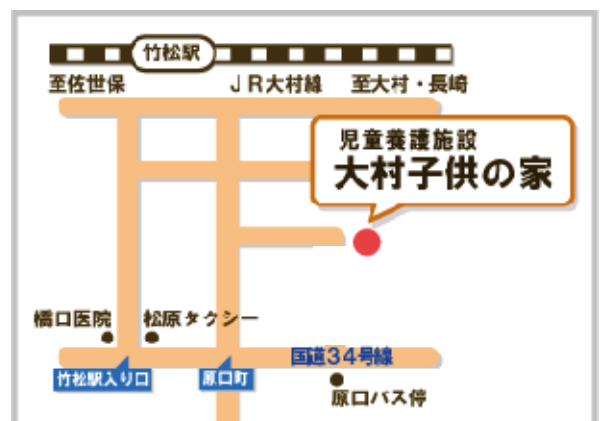
5月・・・健康表彰・子供の家球技大会（上旬）、こどもの日BBQ会（上旬）、郡川かつぱ祭り（中旬）

6月・・・小学生プール開き（中旬）



編集後記

長くて寒い冬がようやく終わり、お庭につくしが顔を出すようになりました。しかし顔を出すのはつくしだけではありません。あらゆる動物が春から活発に動き出します。全て歓迎とはいかず、とくに怖いのは素早く地面をはい回る黒い昆虫G K B Lの存在です。幸いにも今シーズンはまだ遭遇していませんが、黒い物体を見かける度に「きっと来る～」のBGMが頭の中で流れ、背筋がゾッとします。その他害虫の目覚めに春から戦々恐々としています。 KM



大村子供の家 〒856-0811 長崎県大村市原口町 591 番地 2

TEL 0957-55-8319 FAX 0957-55-4661